杜の都の環境をつくる審議会
第２回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会 議事概要

日　　時：令和２年３月６日（金）10 時 00 分～11 時 45 分
会　　場：市役所本庁舎６階　第一会議室
出席委員：舟引部会長，池邊委員，小貫委員，近藤委員，渡邉委員（計５名）
欠席委員：福岡委員（計１名）
事 務 局：建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，同課主幹兼企画調整係長，同課緑化推進係長，同課緑地保全係長，公園課長，同課公園整備担当課長，同課公園マネジメント推進係長，河川課長
（計 10 名）
司　　会：百年の杜推進課長

1．開会
○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）
―開会―

2．議事
(1)次期計画の方向性等（案）について
○事務局（水嶋主幹：百年の杜推進課企画調整係）
―資料説明（資料１－１）
○舟引部会長
・渡邉委員はグリーンネストシティの提案があった総合計画審議会の「まちと活力部会」の部会長を務められており，私は景観総合審議会の「屋外広告物部会」の部会長を務めている。「屋外広告物部会」で作成に着手した屋外広告物ガイドラインでは，風格と品格を追求しようとしており，当部会では，緑化の部分で補完するようなことを考えているところである。
○池邊委員
・屋外広告物について質問したい。ペデストリアンデッキ周辺の広告物の調和があまりとれていないように思う。調和が取れると，風格，品格が増してくるのではないだろうか。
・仙台駅前が壁面緑化等もなく構造物だけになっている。ガイドラインの策定や景観重点地区の指定など“もてなす”といった構想はないのかお聞きしたい。
○舟引部会長
・広告物景観地域になっており，厳しい基準を作っている。５年前と比べると随分変わっており，屋上広告塔の減少やパブリックサインの改善などがみられるが，垂幕看板は改善の余地があり検討を行っている。
・改めてとなるが，総合計画の検討が同時並行的に進んでおり，今月も「まちと活力部会」の開催が予定されている。本日は事務局からみどりの新しい施策について説明があるが，その施策を「まちと活力部会」の重点プロジェクトに載せていくことになる。活発に議論してもらいたい。
○事務局（水嶋主幹：百年の杜推進課企画調整係）
―資料説明（資料１－２，資料１－３）
○事務局（菅原技師：百年の杜推進課企画調整係）
―資料説明（資料１－４，資料１－５）

○小貫委員

・資料１－２で，市民ワークショップは延期となったようだが，ワークショップの資料の内容でよく分からないところがあった。この計画を作るにあたってワークショップからどのようなことを市民の意見として吸い上げるのかを検討して実施してほしい。

○事務局（水嶋主幹）

・しっかりと内容を精査して，実りあるワークショップとし，新たに作る計画の中に確実に反映していきたい。

○渡邉委員

・基本理念について，しっくり来ないところがある。

・次期計画では，グリーンインフラをしっかり踏まえていくというところが大きく変わるところ，もしくは一歩進めるところと思う。妙案は浮かばないが，みどりの役割が再認識され，みどりに対する市民の愛着や歴史文化を背景にした認識からもう一歩踏み込んで，新たなみどりの次元に進むというニュアンスの内容が盛り込まれると良い。

○近藤委員

・現行計画の検討の際は，どのように他の関連計画と連携が取れていたのかが見えなかったが，今回は全体として進めていくうえで具体的に他の関連計画の検討状況が見えることは非常に良い。

・今回の資料は，事務局が楽しみながら作成したのではないかという印象がある。他との連携が気持ちのうえでの弾みにつながっていると思うので，大切にして進めてほしい。

・基本理念に案１と２があるが今からの 100 年なのか，あるいは常に 100 年を意識するという意味なのかをお聞きしたい。

・基本理念の案は１と２とどちらがお薦めなのか。

○事務局（岡田課長）

・事務局としても迷っている。しかし，「百年の杜」の 100 年というのは，具体的な数字というよりは，悠久の時を表す言葉として使っており，未来へつづるという未来と 100 年というのは重なってくると捉えている。

・2 つ目の「『百年の杜』が育む人とまち」については，これは現理念が，「みんなで育む『百年の杜』」ということで，杜をどうするのかという視点の理念を今度は育んだ杜が人や街にどういうものをもたらしてくれるのか，少し先を見た視点の理念としたく検討している。

○舟引部会長

・まだ二者択一のレベルには来ていないということである。

○小貫委員

・緑の基本計画を作ろうとしているので，みどりに立脚した話でまとめていくのが基本だと思う。

・グリーンインフラの話は幅が広くて，みどりだけの話ではないことが多く盛り込まれている。グリーンインフラを推進することで，みどりはどのようなところで役に立てるのかといった視点がほしい。

・方向性についても，グリーンインフラを推進するために，狭義のみどりに何ができるのかを明確にして，前面に押し出した方向性を示す必要がある。

・みどりの効用や役割を踏まえると，案２のほうがみどりを活かしていく印象を受ける。

・みどりでどういうことに挑戦するのか，「新たな杜の都」とは何なのかをこの計画の中できちんと打ち出せると，総合計画との関連性も出てくる。

○舟引部会長

・近藤委員は，前回の計画から言葉を大きく変えたりすることに関してはどう思われるか。

○近藤委員

・震災から９年が経過し，世の中の変わり様を見たときに言葉は相当変わるだろうという印象があり，前回の部会を踏まえても実際そのように感じた。新しい言葉そのものや考え方もこの 10 年で変わった部分が多くある。前回の計画と比べたら，言葉自体も変わり，内容も大きく変わるのだろうなという印象を受けている。

○池邊委員

・頑張った印象を受けており，良いとは思う。

・「みどりで選ばれる」というのは新しい観点であり，総合計画とも兼ね合っている。

・「みどりと暮らすまち」，「みどりを大切にするまち」は受け身の印象を受ける。

・「心身の安寧」という言葉は良いが，説明内容は両方とも子どもを対象にしているようだが，大事なことは子どもだけでなく大人もであり，みどりと産業を結び付けて就労者に向けた視点が必要だ。

・みどりとの関係性にもっと積極的な挑戦をしていくことが必要である。例えば企業や工場が新しく緑化に取り組もうとしていれば積極的に支援を行うということや，住宅地やマンションに関しても，独自に補助を行うことで，そういう所に住めるということが，海外であれば投資対象になっており，また頭脳労働の産業を誘致することに繋がるかもしれない。それが仙台の価値を更に高めるかもしれない。

・昨今では会議施設なども様変わりしており，東京都内の大手企業の会議施設は広さもあり自由に選べる飲食物が提供され，皇居外苑が見渡せるなど魅力的になっている。仙台に進出すると東京の３倍のオフィススペースが取れて，就業者のための保育施設や遊戯施設，休憩施設が確保できるといったような企業が誘致できれば，仙台の街がより良くなる。国際的な目線に立って，先進都市を見据えても良いのではないかと思う。

・国際的な都市の基準の中に，Liveable という言葉を入れた国際賞がある。海外では投資対象に結びつく価値の高い賞であり，日本という枠を超えた新しい都市像が求められている。

・今後の国際都市を見据えて，東京とは違う形の職住近接で，なおかつ豊かで，しかも心身が健康であるというようなことを考えると，この基本方針は，このまま５つでも良いと思うが，少しこのストーリーが変わってくるのではないか。

・「賢くつきあう」というのは，若干自然に対しては失礼だと思う。「みどりと暮らす」，「みどりを大切にする」というよりは，もっと緑を積極的に暮らしに取り込むとか，あるいは職場にも取り込むとか，緑に対する新しい挑戦を期待したい。仙台だからできる新しい取り組みを謳っても良いのではないか。

・そのような実験を都市緑化フェアの中で実施してみてはどうか。

○事務局（岡田課長）

・総合計画の中でグリーンネストシティという考え方を示されている。そのグリーンネストシティを進めていくうえで，非常に重要な柱の１つがグリーンインフラだと考えており，そのグリーンインフラを緑の基本計画でしっかりと受け止め，総合計画の，新たな杜の都，あるいは挑戦というところを盛り込みたいと考えている。

・前向きに表現し切れていないところは，さらに検討を進めていきたい。「みどりと賢くつきあうまち」は，グリーンインフラをイメージして考えていたところだが，この表現についても，もう少し検討を進めたい。

○舟引部会長

・ストーリー感は大切であり，今までの緑の基本計画は，みどりを創り生み出すところに重点があった。新しい計画は創り続けるということは継続しつつも，さらにそれをグレードアップして，外に向けて発信していこうという挑戦の話である。チャレンジをうまく込めた言葉

遣いが大切ではないかというのが，今の意見である。

・郊外のニュータウンはかなりグレードが高いが，都心での再開発によって生み出された緑化も含めた建物周りの設え等は，東京や大阪で行われているような再開発のレベルの水準に全く達しておらず，無味乾燥なものをつくっているところが多い。仙台の標準レベルが低くなっており，東京に追い抜かれているという感覚がある。今回の計画で見直していく必要がある。

〇小貫委員

・グリーンネストシティにどのように近づけるのかだと思う。それは量の話もあり，質の話もある。みどりに立脚した話にしたい。

・この計画で目指すみどりをしっかりと定義づけることが大事であり，忘れてはいけない観点だと思う。

・グリーンインフラの施策を見ると，どちらかというと環境基本計画のようなところに足を置いてしまいがちである。緑の基本計画であるということを念頭に置いて，グリーンネストシティになるために，みどりに何ができるのかというところを議論したい。

〇池邊委員

・東北大学青葉山新キャンパスに寮ができたが，留学生などにとってチャーミングな緑化空間ができているとはいえないと感じる。

・非常に重要な話として，グリーンインフラと言ったときに，仙台には柔らかい緑や心を癒やす淡い緑，斑入りの色や草花の緑といったものが無い。東北だからこそ春が待たれていて，春に華やかに，桜よりももっと先に街の中に緑が溢れるといったような工夫ができると思う。

・新しい都市緑化の技術等を踏まえた壁面緑化等，新技術に対して支援をするといった新しい補助金等を考えてはどうか。

・福岡市天神の警固公園の再整備は参考になると思う。以前は治安が悪かったが，樹木を撤去し広場を整備したところ，周辺のビルの飲食店が公園側を向いて出店する事象が起き，街が明るくなった。

・明るくて華やかなみどりを都市緑化フェアを契機に，仙台にも取り入れられると良いと思う。

〇舟引部会長

・明確に高いレベルに目標があるということを表現しないといけない。

・これまでのゴールは，量的な数値を目標としていたが，今回はそれだけではなくて，質やにぎわいの創出といった検討をしており，そのような部分にしっかりと目標を設定して，それに施策が紐づいているというのが美しい形ではないか。

(2)都心部におけるグリーンインフラに係る施策・取組み（案）について

〇事務局（菅原技師）

―資料説明（資料２－１，資料２－２，資料２－３，資料２－４）

〇小貫委員

・どうみどりが役に立つのかという視点が必要だ。

・例えば，３番に「定禅寺通におけるまちの回遊性を高める歩行者空間の形成」と書いてあるが，このタイトルだけでいくと，まちづくりの話である。そこに，みどりというものがどう役に立てるのか，どのようにここにみどりを生かすのかということを具体的に見せていかないと，みどりの計画なのか，まちづくりの計画なのか，分からなくなってしまう。

・同じような話で，例えば透水性舗装は，花壇としたほうが緑化の観点からは良い。みどりで本当にやりたいところを明確に打ち出していったほうが良いのではないか。

・みどりを特徴づける表現が必要ではないか。

○事務局（岡田課長）

・今回の計画を考えていく中で，仙台のみどりをどうしていくのか，どうつくり，どう守り，どう利用していくのかを基本としながらも，考える姿勢として，その先，どういう仙台を目指していくのかというところを見据えながら，施策についても検討していきたいという考えがあった。

・みどりとして何をして，それが結果としてどこに向かっていくのかをしっかり表現しないと，緑の基本計画としては，少し浮ついたような印象になってしまうということを感じたところであり，考える姿勢や表現を改めていきたい。

○舟引部会長

・資料２－２の一覧表を見ると，これまでの緑の基本計画と比べて，たくさんの関係部局と調整していることがわかる。

・みどりに関する施策・取組みは広範囲にわたっていて，緑の基本計画は広範囲で関与したほうが良いのではないだろうかということだろう。建築物の緑化基準という話になると，実務は都市整備局になるだろうが，総合計画のコンセプトに基づいて，それぞれがしっかり位置付けることが大切かと思う。関連計画が多くあるため，重複領域も多くあろうかと思う。今回はどちらかというと，もれなく拾うというようなことからスタートして，重点を選んでいき，順次精度を上げていってほしい。

○渡邉委員

・建築物等の緑化は，民間事業者がそれをすることによるメリットや合理性がないため進まない。

・特に仙台では震災以降，ものの見方が変わってきている。ガイドラインも認定制度も結構かとは思うが，もう少し連携を深めるようなことも念頭にしても良いのではないか。

・環境審議会では，先般，温暖化対策を条例化した。その時には，大口排出の事業者に，行政側からアドバイザーを立てるにしても，コミットしていくような枠組みにした。何か押し付けるのではなくて，一歩踏み込んで一緒に議論をしていくというようなことを特に都心部ではやっていかないと，何も変わらないということになるのではないか。

○事務局（岡田課長）

・建築物の緑化については，助成制度があるが，なかなか実績が上がっていない。今回の施策の中でも，建築物の緑化に関するものを幾つか挙げたが，実際に行うのが事業者であるというところがポイントになる。こちらから何らかの形で，事業者にアプローチしていく手法は整えていかないといけないと感じている。

○池邊委員

・緑化ガイドラインや，緑化認定制度というよりは，グリーンビルディング何％という目標を持ったほうが，挑戦という意味では良いと思う。

・建物緑化は東京 23 区でもなかなか進まないところがあり，補助金があっても使われないことが多くなっている。しかし，グリーンビルディングとなると，企業が進出するときにも，その認定を取れているかどうかによって，オフィス賃料の維持向上や外資系企業の参入にも関係してくる。緑化ガイドラインや認定制度はグリーンビルディングを追随するものであり，もう少し大きくグリーンビルディングを打ち出すべと思う。

・柔らかくて心が癒されるようなみどりの空間の創出が必要である。

・仙台は，春の売りものとなる植物の種類が少ないので，壁面緑化の中に，春に咲く植物を取り入れることで，壁面緑化に大きく貢献する。ぜひ都市緑化フェアの時には，そのような花のある壁面緑化を展開してもらいたい。

○事務局（岡田課長）

・グリーンビルディングは，非常に有効な手段だと認識しているが，緑の基本計画として，そこまで踏み込むということに，少し躊躇してしまったところはある。
・グリーンインフラとして，広範囲で考えようという観点からすると，当然グリーンビルディングについても，この緑の基本計画の中で位置付けていくことも考えていきたい。

〇池邊委員

・みどりで何ができるかいう話についてだが，みどりで都市として勝ち組になる必要がある。勝ち組になるには，横浜や名古屋とは目指す方向性が違わなくてはいけない。都市緑化フェアも同様である。その時に，一体何を目指すのかというのをもう少し明確にすると良い。
・仙台駅前のペデストリアンデッキ一面に壁面緑化が施せると，誘客にも繋がり，新幹線を降りた途端にこの街に住みたいと思うくらいの驚きがあっても良いのではないか。

〇小貫委員

・青葉通の仙台駅前の広場化など，グリーンネストになるためには，今ある計画だけではない部分にも先回りして言及できれば良い。計画的にピックアップして，具体的にここはこうしたいと打ち出す必要があるのではないか。特に仙台駅前は狙い目である。
・大店立地法の委員会の委員を務めていたが，商業施設では建物が最初となり，余った土地が緑化されている程度の話となる。せめて都心に関しては，どのような緑化をしてほしいかをきちんと打ち出すような話をしていかないと，民間事業者に積極的な緑化を行ってもらうことは難しいのではないか。

〇池邊委員

・仙台市役所まで来る交通手段として地下鉄を利用するが，駅中に商業施設がなく広告も一定のものしかなく，下水道のように感じる。
・地下も心地良くすることが大事であり，収益施設の導入が難しくとも，企業の SDGｓと連携して壁面緑化や水耕栽培施設の導入などにより緑があると，それだけでも仙台の地下鉄駅は美しいということになる。
・地下空間のみどりによる活用を都市緑化フェアで発信してはどうか。

〇近藤委員

・郊外の先進的につくられてきた居住空間は，建て替えの時期になったときに，出来上がったものを見ると癒やされる住居にはなっていないと感じるものが散見される。
・周りが緑だという印象が強いために，市民，それから事業者，あるいは企業の意識が，おろそかになっているのではないか。
・今，真に事業者がみどりによって得られる自分たちの生活の豊かさのようなものを本当に理解出来ているのかどうかが課題なのかもしれない。みどりによって得られる豊かさを重要視した都市緑化フェアにする必要があるのではないか。

〇舟引部会長

・自分の所有する不動産の資産価値を高めようと思うと，丁寧に手入れをして長期的にきれいにするが，短期的にそのプロジェクトだけをやろうとすると，緑化は最低限にされてしまう傾向がある。
・ビルの賃料を継続的に高い水準にするためには，エリアマネジメントをして，きちんと緑化を図りきちんと管理をする流れを仙台でもつくらないといけない。そのためには，行政が，そのエリアについてどうするかの方向性を示さねばならない。
・総合設計を指導する指針が，よくない状況にあり，公開空地がうまくつながっておらず，使い勝手が悪くなっている。
・必要な水準像を，事務局を含めて市で共有して示していかないと，グリーンネストにはならないということではないか。

○渡邉委員

・資料２−４のように，この施策，取り組みを地図に落とし込むということは，とても大切なことだと思うのだが，中心市街地の位置図は，おそらく１万分の１ぐらいであるが，今の議論をスケールに落とし込むと，スケール感としては，100 分の１とか 50 分の１ぐらいの話まで踏み込んでいる。そういう議論のスケール感というものも意識していないと，議論がよく分からないことになってしまうので，留意してほしい。

・緑化重点地区の街路緑化は，もう少しバージョンアップできないか。

○小貫委員

・緑の回廊を充実させようという計画があったと思う。資料２−４の図の中にもある白い所は緑化していくべきである。

・都心はマンションが増えている。そういったものに対して，どういう緑化空間を構築するのかは考える必要がある。公園等も含めて，どういう緑のある生活を提供するのかということは，行政だけではなくて，マンションを建設する事業者とも何か協力してやれるようなことがあっても良いのではないか。

○事務局（岡田課長）

・位置図のスケール感については，都心部全体を俯瞰してこのような形でまとめたが，実際の施策を考えていくうえでは，もっと細部が分かるような形で進めていくことになるだろう。いくつかの施策をお示ししたが，具体的にどこで実施するかといったイメージは持っており，常に現場をイメージしながら考えていくよう進めていきたい。

・マンションの緑化や民間事業者による緑化に関して，条例に基づき緑化計画の内容について事業者と協議を行っているが，理解をいただいて十分な緑化をしていただくということは少ない。これからも，その協議の中で，理解いただくように進めていかないといけないと感じている。

・緑の回廊は，引き続き進めていく。まだ十分でないところも，重点的に進めていく。

○舟引部会長

・資料２－３の個票 12 についてはどのように考えているのか。

○事務局（岡田課長）

・資料２−４の図で緑になっていない所が幾つかある。元寺小路福室線は，現在，緑量としては少ない路線になっており，個票 12 のイメージ図にあるような中央分離帯については，トチノキ以外は植栽がなく，それ以外の部分はコンクリートの土間コンクリートで固めている。ここについては，広瀬通の中央分離帯のイチョウの伐採について，以前，当審議会で審議を行った際に，東口側で緑化をより充実していくと説明を行った。少し時間はかかっているが，緑の基本計画の中に具体的に位置付けて進めていきたい。

○舟引部会長

・この水準で良いのか。

○事務局（岡田課長）

・個票 12 のイメージ図は以前に当審議会に提出した資料をそのまま使用したものである。この内容についても，どういったものが適切なのかということは，再度検討していきたいと考えている。

○舟引部会長

・南北の宮沢根白石線は，広瀬通の延伸部分の所に行くと，街路樹が全くなくなってしまう。現在進行系の事業も含めて市の中で調整を図り，街路樹植栽がしっかり行われるようにしてほしい。

○池邊委員

・なぜグリーンインフラかというと，気候温暖化対応への取組みが優先度が高く重要性が高まっているということである。
・環境省では，中小ビルの改修の事例が掲載された事例集を公表している。
・仙台でグリーンビルディングをすぐに普及させることは難しいと思うので，中小ビルの改修の際に技術開発に補助金を出すといったことなど，都市緑化フェアに向けてチャレンジするということが必要ではないか。
・どの都市でもできるものではなく，地に足が着いたもので，しかも仙台でもできるものが必要である。それが，既存ビルの改修の際にどのくらいグリーンインフラをビルに取り込めるかということではないか。
・グリーンインフラは今までの仙台だと，街路樹とか公園だけだが，ビルもグリーンインフラになるというのが，グリーンビルディングの考え方である。そういうものを実施すると，初めて地方都市の１番としての仙台市というのが，生きてくるのではないか。ぜひともチャレンジしてほしい。

その他

〇舟引部会長

・一昨年の百年の杜づくりフォーラムでは，ペデストリアンデッキを花と緑でもう少し飾ったらどうだろうという意見が出た。よく見ると，植樹場所があり，ある程度樹木は植栽されているが，目に入ってこない。都市緑化フェアに向けて実験的におもてなしのみどりの創出に取り組んでも良いのではないか。
・その他，いかがだろうか。特になければ，これで議事の全体を終了とする。

（委員一同了承）

4. 閉会

〇事務局（岡田課長）

・以上で，杜の都の環境をつくる審議会第２回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会を閉会とする。
・第 85 回杜の都の環境をつくる審議会は３月 25 日を予定している。次回の当部会は，５月頃の開催を予定している。